白紙

立原道造

青空文庫

突然が僕を驚かす。僕はそのとき、發見したのだ。ひとりの少女は、埃りにまざつて電車にのつてゐた。朝の空氣が僕たちの間を流れる。僕たちは、眼と眼で、そつとうなづきあふ。ちようど知らない人間同士がするやうに。それから、僕は、何でもない數字を計算する。しかし、僕は自分の苦痛からはみ出さうとするこのたくらみに失敗する。すると僕は、動けなくなる。ぼんやり窓のところを見つめるきりだ。町が、走り去つて行く窓のところを。

それが、はじめて出會つたその少女だつた。……

だん〳〵上手になつて行く想像、僕の傍でうつとり息をしてゐる、羚羊のやうなやはらかい瞳。遠近のある少女の身體。しかし、それは少しも彼女に似なくなる。僕は、四分の一の大きさの彼女をしか知らない。やがて僕は、海の底にゐるメクラの魚のやうに苦しくなり出す。

これが、僕の愛情のきざしだつた。

そして、僕は、朝の電車で、彼女に、しば〳〵出會ふのだつた。

或る日。僕は、親しい友人に、それを、うちあける。その友人が、祕藏の寫眞のやうな僕のその少女を知りたがりはじめる。一種の怖れで、僕は、得意げな顏をする。それから、僕は、わけもわからず、顏を赤らめる。

友人同士が一しよにうまくやつて行くのは、彼等を裏打ちしてゐる苦痛のおかげにすぎないのだ。

僕と、その友人は、電車に乘る。僕たちの向ひに、三人の少女が坐る。すると、彼はあはて出す。そして、僕に、そつとさゝやく。

——その一人は彼の知り合ひだと。僕は、わざと知らない顏をさせる。彼の頰に、へんな線が浮ぶ。と、同じやうな線が、向ひの少女の顏にも浮ぶのだ。僕ひとりが、わるくはしやぎはじめる。向うの會話は何もきこえない。笑つたり眼を閉ぢたりする動作が僕たちの傍へやつて來る。……

僕は、こんな風にして、愛情のなかへ沈んで行つた。自分では、その沈んだ深さを測定出來ない。その結果、僕は、自分の愛情を見誤るのだつた。

そして、あはてて、彼女に手紙を書く。だが、それをいつまでも彼女に渡せない。僕は、それを、ポケツトのなかにそつとしまつたのだ、學校の行きかへりに、ポケツトが氣になる。時間が、その手紙を、感情の汚點（しみ）で古くしてしまふ。

うまい機會がやつとやつて來る。

それは、午後の坂道だつた。僕は、その少女とすれちがつた。すれちがふ汽車の速力が何も見せないやうに、僕に何も知らせない。

僕は、急に決心した。そして、彼女に手紙を渡したのだ。彼女は頰をあからめた、坂道をずん〳〵のぼりながら。僕は、立つたまゝ、彼女の靴の鳴るのを聞いた。するとかすかな心配がやつて來た。……

すぐに彼女の返事が待ちきれなくなる。翌日は雨だつた。雨だれ

の音が、身體のなかに入つて來る。幾日もの間、不用だつた一切が急に必要になる。僕は、自分をだますために、詩を作る。――

（手紙。……

ひとつの返事が來ると、それに返事したい新しい欲望

水仙のにほひ

郵便切手を、しやれたものに考へはじめる……）

毎日通ふ學校や、友人が、うるさくなる。僕は、病氣のまねをする。

彼女の返事は來ないのだ。

かういふとき、彼女の肖像を想像することは、却つて彼女を忘れさせる。それは、待つてゐる時間は、待つてゐない時間よりも、その待つてゐるものを見えなくするからだ。僕のなかで、だん〳〵ひとりの少女が逃げて行く。僕には、それを追ふことが出來ない。

さうして、毎日。昨日にました苦痛がやつて來る。昨日は過去だ。過去は手術しない、僕は、苦痛のなかで、ぼんやりしてゐる。僕が時計の文字板（カドラン）から讀むのは、要するに數字にすぎない。僕の期待と無關係な時間なのだ。

或る夕方。僕は、いつかの友人と一しよに、此の間の坂道を歩く。僕はわざと陽氣さうな笑ひ聲を立てたりする。（それは、一錢銅貨の裏表のやうに苦痛にすぐ近いものなのだ。）

すると、にせ物の意地わるい天使が遠くからやつて來る。僕は、最初、やさしい顏をしてみせる。そのおかげでだん〳〵僕には今起つてゐることがわかるのだつた。僕は、急に水のやうな空氣を感じ出す。小さな魚や、古靴や、油や、蛾を。傍にゐる友人が、不思議さうな眼で、僕の横顏を見つめる。彼には何もわからない。僕は、さうして僕を立ち去る。僕の肋骨や足に躓きながら、彼女から立ち去るやうなふりをして。しかしその時、彼女は僕たちとすれちがつてゐた。……

青空文庫情報

底本：「立原道造全集　第3巻　物語」角川書店
　　1971（昭和46）年8月15日初版発行
　　1976（昭和51）年8月30日7版発行
初出：「こかげ　第3号」
　　1932（昭和7）年9月
入力：八八十零
校正：村並秀昭
2020年2月21日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

白紙

立原道造

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/